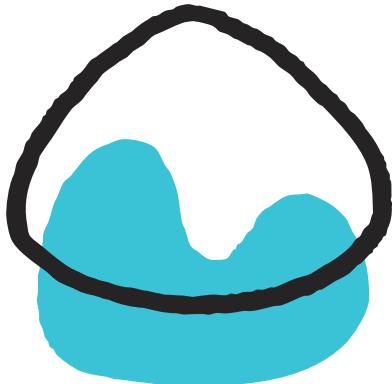


みんなで作る
新たな対話



地域交流施設

おにぎり べんち

△ONIGIRI □ENCH



出会い、話して、見つける、あなたのベンチの物語
いろいろコロコロころがって

医療法人CLSすがはら

菅原 知之

管理栄養士

宮本 智美

有明工業高等専門学校

正木 哲

グラフィックデザイナー

鶴岡 章吾

おにぎりべんち（後編）
地域の座談会

（撮影時のみマスクを外します）



現在建設中の地域交流施設「ONIGIRI BENCH」

前回の「負けないおにぎり」の話に続き、 もう一つのキーワード「ベンチ」について語り合いま

—前回のお話にも少し上がって
いましたが、「ベンチ」が新しい
施設のキーワードになった、その
発端を教えてください。



鶴岡 2年前のことなんですが、
僕はCLSすがはらのパンフレット
を制作していて、そのときに菅
原さんから院内のコミュニケー
ションをもっと活発にしたいとい
う話を聞いたんです。僕はある
雑誌で読んだ「テーブルとベンチ
から生まれる対話と自立」という
記事を思い出しました。デンマー

クでは屋内外間わず至るところ
にテーブルとベンチが置かれて
いて、その場で自然に対話が生
まれている。こうした環境が会話
好きなデンマークの国民性を育
んでいる一因ではないか、とい
う内容でした。これをヒントに、と
にく何かやってみないと変化は
生まれないから、ベンチを置くこ
とから始めてみませんかと提案
したんです。

—でも、実際にベンチを置いて
みてもうまくいかなかった。

鶴岡 はい。そう感じていま
した。一脚だと、変化が分かりづら
かったのかもしれません。

菅原 僕は良かったと思ってい
ますよ。みんなちゃんと勝手に
使っていました。スタッフが腰か
けてひと休みしたり、スタッフと患
者さんがおしゃべりしていたり、

▶大牟田を拠点に活動するデザイナー。
グラフィックデザインに限らず、必要とさ
れる様々な課題をデザイン的・現実的に
解決するべく積極的に動かれている。



鶴岡 章吾さん

tool_design
グラフィックデザイナー



のこれからを考える座談会。

す。



ときには子どもたちが野球をするためにベンチをどかしたりしているのも面白かったです。なんだか、自然と自分たちで場所を



作っているような感じがありました。それは鶴岡さんが目指していくものだと思います。やってみた意義はありましたよ。ただその後、

コロナ禍や猛暑などの問題が重なって、次の段階へうまく進められなかったように思います。

鶴岡 ベンチを置いた後は、第二段階としてスタッフの皆さんに外に出てきてもらえるように、ベンチの近くに屋台を持って来てコーヒーを出してみる、プランターを置いて植物を育ててみるなどの企画を考えていたのですが。「誰もが平等に使える場所」から、部署の境を超えたつなが

りが生まれていけばいいなと思っていました。

正木 子どもたちが遊ぶ都合でベンチを動かしていたというのは興味深いですね。もしベンチがいくつかあったら、集まって話せるように誰かが並べ替えていたかもしれない。毎日ただ通り過ぎていた場所にベンチが置かれたなら、そこで休憩するルーティンができる人がいたかもしれない。そんなふうに、ベンチは自分が過ごしやすいように「場」をアレンジできるツールなんです。その場所にとても簡単に関わりを持てますよね。「人様の場所」なんだけど、ここを使ってもいいんだという意識に切り替わる。

菅原 それはベンチが「誰でも座っていいよ」というメッセージを持っているともいえますね。そういう「人の振る舞いを促すモノ」という考え方はとても新鮮です。そこに暮らす人たちからさまざまなアクションを引き出せるモノって、地域の交流を促す重要な存在ではないでしょうか。

▶地域交流施設「おにぎりベンチ」計画
の言い出しつぶ。以前は普通にあった人
同士の他愛ない会話や何気ない交流、
賑わいを復活させようと奮闘中！

菅原 知之

医療法人CLSすがら
専務理事



—正木先生は有明高専の学生と一緒に、地域の方が参加できるDIYのワークショップを展開されています。それにはどんな意図があるのでしょうか。

正木 私は何かを作つて自分が居る空間を心地良くしていくという行動は、生きていく上で人間に本来備わっている力ではと考えています。その探究の一端というか、昨年「シェアブックカフェ」を学生たちと開催しました。みんなで本箱を作つて持ち寄った本を飾り、ブックカフェを開くという企画です。本箱は誰でも気軽に参加できるように、工具や釘を使わずに組み立てられる構造を考えました。人はモノをつくるプロセスに関わると、そのモノや場所に愛着を持って利用できるようになります。そういう体験を学生含め、いろんな人にしてもらいたくて。



▲正木研究室による「シェアブックカフェ」の様子。地域から持ち寄られた本が並び、学校帰りの子どもたちで賑わった。



菅原 自分が関わったモノがある場所は、ここに居ていいんだと思える居場所になるということですね。その話を聞いて、介護施設を利用している方々のことを見出しました。入居時はみなさん、ご自宅から仏壇や使い慣れた家具などを居室に持つていらっしゃいます。住み慣れた家を離れてがらりと違う環境に置かれるわけですから、その方なりに過ごしやすい環境を作つて、新しい場所に安心感を得ていらっしゃるんでしょうね。「ONIGIRI BENCH」にとつても「居心地の良さ」は大事なキーワードだと考えています。地域の方一人一人が、自由に居場所をつくりたいける場所にしたいですね。

鶴岡 それを検証するのはなかなか難しいこともあるなと思います。できたばかりの建物って、使つてゐる空気感というか、人のにおいみたいなものがないですよね。建物ができたら完成じゃな

くて、それがスタートラインで、そこに人がどう関わるのか、その人にとってここの空気は心地良いのか、自分にはちょっと違うと感じるのか。そういうささやかな変化って、建物ができたばかりでは感じ取りにくい。それはもう何年後かにしか分からないことなのかもと思います。みんなの思いを聞きながら試行錯誤して、建

▶ 有明高専にて、建築を切り口に人々どのように集い、行動し、影響を与え合うのかをテーマに研究をされている。
今年から学生寮の担当にも！

正木 哲さん

有明工業高等専門学校
建築コース准教授
博士(人間環境学)



▲ときには高齢の利用者が休憩に利用したり、ときには子どもたちが遊びの邪魔者として移動したりする芝生のベンチ。

物を使って、使い倒して何年か経ったら理想的な空間が出来上がっているって感じがいいなあ。振り返ったときに、ここ、あんなことがあってこういう形になつたんだよね、といえるような。それが楽しみでもあります。

正木 「ONIGIRI BENCH」は、建物の敷地の歩道側がオープンになっていますよね。こういう形で外から受け入れる部分を作るというのは、空間としてはすごく可能性を感じます。気軽に一歩入り込める開放感が、この建物の多様な使われ方を生み出しそうです。

鶴岡 地域の交流を促す大きな間口になってくれそうですよね。

菅原 同時に地域の方々を受

け入れる側として、CLSすがはらの在り方もよく考えていかないといけませんね。以前、こんなことがありました。外の水道のまわりに子どもたちが遊んだと思われる水風船が散乱していたり、建物の屋上に野球のボールが大量に見つかったり(笑)。万が一の事故が起こらないとも限らないし、水道の蛇口を鍵付きにしようと、トラブルが起きた際は責任は取りませんと看板を立てようという話もあったんです。でも、それはしませんでした。ここに来ないでほしいという“メッセージ”として伝わってしまいかねません

から。それは避けたくて。

鶴岡 そういうことも地域交流の活動にうまく取り込んでいけ

たらいいですよね。子どもたちに声掛けして、清掃と一緒にやる企画を立てるとか。マイナスに受け止めてしまいそうなことも、一緒にやろうよっていう気持ちで取り組めるといいですね。

菅原 確かに。メッセージをどういうカタチで発信するかっていうのも、大事なテーマですね。

正木 この辺りは新興住宅地ですよね。ここがこれから地域として成熟していく過程で、住む方々が必要とする「コト」や「場所」が出てくると思います。この施設に、それらを受け入れられる力があると、地域の人々の暮らしにより溶け込んでいけるでしょう。地域の声を探り続けることが大切でしょうね。

アバウト → 新たな対話 →

■ OUR NEW DIALOGUE ■

待つことの価値

医療法人CLSすがはら
専務理事 菅原知之

「てとての広場」は、地域の交流拠点として多くの方々にご利用いただいている。「てとての」という言葉に込めたのは、手と手、人と人、想いと想いの“つながり”。そして最後の「の」は、その先に新しいコトがやってくる、“続き”を期待する思いを込めています。

てとてが重なり合う場面では、いつも何が起きているのでしょうか。

哲学者の鷺田清一氏は著作の中で、今の時代は「こちらが何かアク

ションを起こす」と「相手から何らかのリアクションがある」ことを期待するという、ある種の信奉のようなものがあると述べています。それはまるで「努力をすれば必ず結果はついてくる」といった精神論のようにも聞こえます。

私たちが従事する医療や介護、福祉の仕事は「結果は必ずしもついてこない」ことが当たり前の世界です。複雑かつ千差万別な「人間」が相手ですから仕方ありません。子どもの教育も同様で、子どもが“まっすぐ”成長

するとは思っていないはずですが、ついつい「やれば結果がついてくる」と期待してしまいます。

私たちはすぐに問題を特定し、解決策を決定し、実行したがります。それを相手が本当に望んでいるのか、その心の声も聴かずには。

「てとての」での出会いは、問題を特定し解決するための関わりではありません。すぐに答えを出そうとはせず、じっと相手の心の声に耳を傾けます。相手の心の中に分け入ろうとするのではなく、待ってみます。そして対話を重ねるうちに、その人が本当にやりたいこと、願うことが浮き彫りになってきます。

てとてが重なる先には、ある時、“何かがやってくる瞬間”が訪れる。それをある種「予期」しながら待ち続け、私たちは関わっていくのだと思います。



負けないおにぎり メタボに

△ NIGIRI RECIPES

満腹感も十分な品
です。
噛む回数をアップ。

【材料(4個分)】

| | |
|--------------------------------|--------|
| ・玄米ごはん (白米3/4合、玄米1/4合)..... | 300g |
| ・サバ缶(水煮)..... | 60g |
| ・ゴボウ | 60g |
| ・ニンジン | 20g |
| ★しょうゆ | 大さじ1 |
| ★料理酒 | 小さじ1 |
| ★みりん..... | 小さじ1 |
| ★顆粒だし..... | 小さじ1/4 |
| ・ごま油 | 小さじ1 |
| ・すりごま | 大さじ1 |
| ・小ネギ | 適量 |



【作り方】

- ①ゴボウは短めのささがきにし、水にさらしてあく抜きする。ニンジンは千切りにする
- ②フライパンにごま油を入れ、①を炒める
- ③②に★とサバ缶を汁ごと入れ、サバの身をほぐしながら炒める
- ④水分がなくなったら、すりごまと小ネギを入れて混ぜ合わせる
- ⑤温かい玄米ごはんに④を入れて混ぜ合わせ、握る

管理栄養士が考える
『負けないおにぎり』
大切な人に握ってあげたい
そんなおにぎりレシピ。

魚油に含まれるDHA、EPAはコレステロールや中性脂肪を減らす効果があります。缶詰の汁も捨てずに利用しましょう。